問題：① 「過去に発生した人身･人為事故事例」 ●人為（電工）

■項目：**整流装置更改工事におけるL-IBS出力断**

整流装置に搭載されている負荷設備(L -IBS）の確認方法として、**<u>不適切なものを１つ</u>**選択して下さい。

1）電力施設記録（プラレコ）において、『 L -IBS』の記載を確認した。

2）現地において、整流装置の前面に 『L-IBS搭載有り』 のラベル表示を確認した。

3）「電力施設記録(プラレコ)の記載」および「整流装置の前面ラベル」が無い場合は、L -IBSは搭載無しと判断した。

解説：① 「過去に発生した人身・人為事故事例」 ●人為（電工）

■項目：**整流装置更改工事におけるL-IBS出力断**

正解:3)「電力施設記録(プラレコ)の記載」および「整流装置の前面ラベル」が無い場合は、L-IBSは搭載無しと判断したが不適切です。

現場・現物への表示（見える化）、電力施設記録（プラレコ）への記載は、気づきを与えるためとても重要です。
なお、対象装置であるMH-E整流装置、FR-E整流装置の前面において、「L-IBS搭載有り」「L-IBS搭載無し」のラベル表示が無い場合は、必ず現物を確認し対策することが重要です。

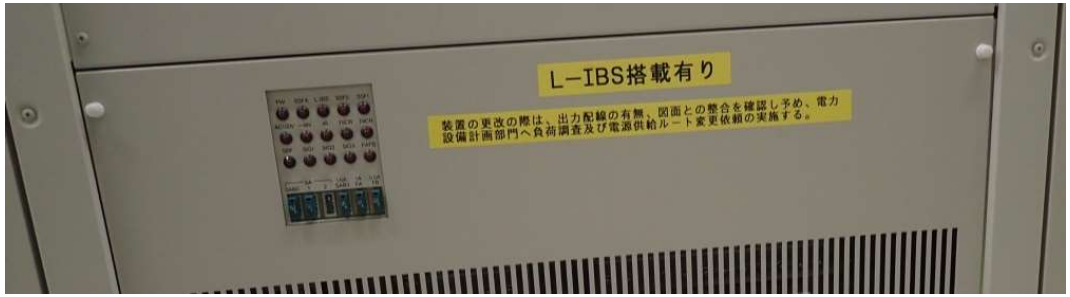
【参考】MH整流装置下部配線タイプの例

【FE第003499号(2016.11.10)整流装置更改工事における出力断発生に伴う再発防止対策(指示)】より

≪対策前≫

『L-IBS搭載有り』の場合

≪対策後≫



『L-IBS搭載無し』の場合

問題：② 「過去に発生した人身･人為事故事例」●人為（電保）

■項目：**ＵＰＳ定期点検中の出力供給停止について**

UPS操作時の対応として**誤っているもの**を選択して下さい。

１）作業前には手順や操作箇所を把握するため事前シミュレーションを行う。

２）作業手順書を作成する際、現物や取り扱い説明書を確認し、押しボタンの位置が分かりづらい事を把握したため、ボタン位置を明示したシールや誤操作防止カバーを貼付けた。

３）指示と確認のチェック欄を設けた作業手順書を使用し、作業者一人で確実に給電切替作業を行う。

解説：② 「過去に発生した人身･人為事故事例」●人為（電保）

■項目：**ＵＰＳ定期点検中の出力供給停止について**

3）指示と確認のチェック欄を設けた作業手順書を使用し、作業者一人で確実に給電切替作業を行う。

は不適切です。

操作者、確認者等の役割を明確にしておき、操作者・確認者が2Wayコミュニケーションを行いながら確実に作業を実施してください。
複数で作業をする場合は、作業者相互の聞き間違いを無くすために、指示者は聞き手の立場に立ち指示内容は具体的、簡潔、明瞭に伝えましょう。 また、聞き手は内容確認を確実に相手に伝えましょう。

問題：③　「過去に発生した人身･人為事故事例」●人為（FM）

■項目：**防災設備点検作業中の誤操作による空調停止**

防災設備点検作業に関する行動として、もっとも不適切なものはどれか？

1）現場責任者は、事前に現場に則した作業手順書か確認した。

2）別の作業に手間取り、作業時間が足りなくなる見込みだったので、作業手順書に二人で実施するよう記載された工程を一人で作業した。

3）事前に作業手順書に記載された危険な工程での立ち止まりポイントを確認していたので、作業実施時に2Wayで確認し、作業を実施した。

解説：③　「過去に発生した人身･人為事故事例」●人為（FM）

■項目：**防災設備点検作業中の誤操作による空調停止**

正解：2）別の作業に手間取り、作業時間が足りなくなる見込みだったので、作業手順書に二人で実施するよう記載された工程を一人で作業した。

が、もっとも不適切です。

作業手順書に記載された危険な工程での立ち止まりポイントは、一人で確認するだけではなく、二人で確認し、実施をしてください。今回起きた事故は、現場責任者が急遽現場を離れ、作業人員が確保できていない中、一人で作業を実施し、2Way確認をしなかった結果発生した事故になります。2022年度は、防災設備点検作業中に人為事故が他にも発生しました。いずれも作業手順書の不備や現場に則していない形式的なKY及び作業員まかせにより起きてしまった事故です。事前に現場に則した危険工程を反映した作業手順書になっているかを確認し、危険な工程での立ち止まりポイントでは、2Wayで確認し、実施して下さい。

2022年度　防災設備点検作業中に発生した人為事故

2022年7月4日
ハロン消火設備の動作確認を実施する際に、ボンベ上部の起動用銅管を取り外さないままハロン起動試験を行いハロンを誤放出

2022年7月19日
自動火災報知設備点検作業にて連動制御を解除しないままに自動火災報知設備の点検を行いハロンを誤放

問題：④「過去に発生した人身･人為事故事例」●人身（建築）

■項目：**盤搬入作業における台車から落下による右足首挟まれ負傷**

重量物運搬作業において、最も**<u>不適切なもの</u>**はどれか？

1）　重量物の運搬は２人以上で作業を実施した。

2）　台車上の荷が落下しないよう、あらかじめ荷と台車をラッシングベルトにより固定した。

3）　搬入経路に段差があったが、急いでいたため段差を解消せずに運搬を実施した。

解説：④ 「過去に発生した人身･人為事故事例」● 人身（建築）

■項目：**盤搬入作業における台車から落下による右足首挟まれ負傷**

正解：3）搬入経路に段差があったが、急いでいたため段差を解消せずに運搬を実施した。
が不適切です。

搬入経路の**段差に台車が躓き、荷が転倒するリスク**があります。
重量物運搬時は、 運搬方法は適切か、作業場所に問題はないか、搬入ルートに段差等はないか
事前の確認を徹底しましょう。

また、重量物が転倒すると人力では支えられません。
重量物転倒時にとっさに手を出すと挟まれ事故につながりますので注意が必要です。

重量物の運搬作業では、過去にも事故が発生しています。
本項目の関連動画は【viaPlatz】で視聴できます。
URL： https://nttgroup-anzenarchive.viaplatz.com/vpz/main/login/
タイトル：K-11_重量物挟まれ（30秒動画）【NTTファシリティーズ】